

総務委員会視察報告書



(金沢駅にて)

平成 30 年 6 月

総務委員会視察報告書

目次

I 視察報告概要	2
1 視察日程	2
2 視察先	2
3 視察の目的	2
4 視察参加者	2
5 視察研修の概要	2
II 視察内容	3
1 公共交通を活用したまちづくり（金沢市）	3
（1） 基本概念	3
（2） 基本方針	3
（3） 具体的な施策	3
（4） 実現に向けて	4
2 多世代の住民が助け合い安心して健康に暮らせるまちづくり（白山市）	5
（1） 概要	5
（2） 目的	6
（3） 目標	6
（4） 運営主体と役割	6
（5） 地方創生交付金の活用について	7
III 委員の感想等	8
1 視察を終えて	8
2 その他	8

I 視察報告概要

1 視察日程

平成30年6月27日（水）～28日（木）

2 視察先

石川県金沢市（金沢市役所）

石川県白山市（白山市役所）



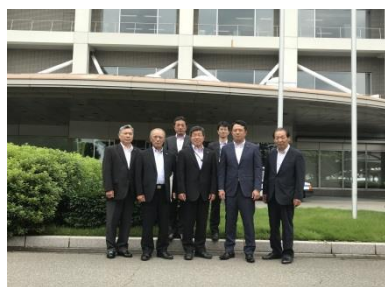
（北陸新幹線）

3 視察の目的

平成28年に第2次金沢交通戦略を策定し、交通によるまちづくりの行動計画を定め、超高齢化及び人口減少や環境負荷低減への対応をとおして、将来を見据えたまちづくりに取り組む金沢市と多世代参加による生涯健康・活躍を目指すまちづくりを目指している白山市の先進事例を調査し、本市のまちづくり政策の一端とすることを目的とするものである。

4 視察参加者

委員長	川村成二
副委員長	櫻井繁行
委員	藤井裕一
委員	鈴木良道
委員	小松崎誠
同行	木村義雄（市長公室長）
同行	槌田浩幸（政策経営課長）
随行者	齋藤邦彦（議会事務局）



（白山市役所前にて）

5 視察研修の概要

1日目（6月27日）は、金沢市における公共共通を活用したまちづくりについて視察。

2日目（6月28日）は、白山市の多世代の住民が助け合い安心して健康に暮らせるまちづくりについて、白山市及び民間事業者の取り組みについて視察した。



（金沢駅の鼓門）

II 視察内容

1 公共交通を活用したまちづくり（金沢市）

（1）基本概念

○ 基本的な考え方（基本構想）

『まちなかを核にネットワークでつなぐまちづくり』

- ・ 新幹線時代に対応した都市内交通や二次交通など金沢駅を拠点とした交通基盤整備
- ・ 都市軸の公共交通ネットワークの幹としての「新交通システム」導入に向けた検討
- ・ 「公共交通重要路線」を指定し定時制、速達性、運行頻度を高める
- ・ 公共交通重要路線と郊外のアクセスは、マイカーと公共交通を組み合わせ、乗り継ぎ拠点等の整備により、公共交通との連携強化を図るとともに、地域の特性に応じた生活交通の導入を進める

（2）基本方針

- 1 交通ネットワークの再構築
～まちなかと郊外をつなぐ公共交通の強化～
- 2 交通機関の連携強化
～円滑な交通結節点～
- 3 交通利用環境の向上
～より利用しやすい環境づくり～
- 4 歩行者と公共交通の優先
～マイカーから公共交通への転換～
- 5 広域・圏域交通による交流の推進
～新幹線時代への対応～



（金沢市での研修の様子）

（3）具体的な施策

- 1 交通ネットワークの再構築
 - ① 新しい交通システムの導入に向けた条件整備
 - ② バス路線の段階的再編
 - ・ 公共交通重要路線の利便性向上
 - ・ 郊外のバスネットワークの改善
 - ・ 地域住民による移動手段確保に対する支援
 - ③ 鉄道路線の充実
 - ・ 石川線・浅川線の機能強化と利用促進
 - ・ JR線及びIRいしかわ鉄道路線の利用促進
 - ④ 金沢フラットバスの充実



（金沢フラットバス）

2 交通機能の連携強化

- ① 交通結節点の整備
- ② パーク・アンド・ライドの推進
 - ・パーク・アンド・ライド駐車場の確保・整備
 - ・パーク・アンド・ライドの利用促進
- ③ バリアフリーの推進
- ④ 乗継抵抗の軽減



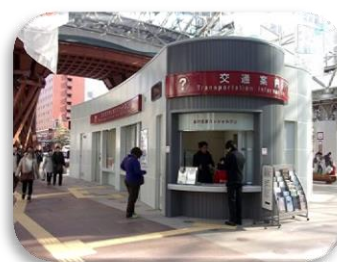
(パーク・アンド・ライド駐車場)

3 交通利用環境の向上

- ① 交通案内の充実
- ② 高齢者や障害のある方への移動支援
- ③ バス専用レーンの拡充
- ④ 渋滞緩和策の実施
- ⑤ タクシーの利用環境向上
- ⑥ 荷捌きの円滑化

4 歩行者と公共交通の優先

- ① 歩けるまちづくりの推進
- ② 自転車利用環境の向上
- ③ マイカーの流入抑制
- ④ 駐車場の適正な配置
- ⑤ 公共交通の利用促進、意識啓発



(金沢駅観光案内所)

5 広域・圏域交通による交流の推進

- ① 北陸新幹線全線整備の推進
- ② 金沢駅の交通結節機能の強化
- ③ 金沢都市圏・能登・加賀、隣県等交通ネットワークの充実
- ④ 金沢港の交通結節機能の強化

(4) 実現に向けて

1 評価のための成果指標

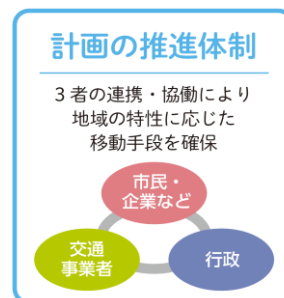
- ・重要成果指標を定め、鉄道・バス利用者数は、平成27年推定値で110千人/日から平成44年目標値130千人/日を、市内の公共交通分担率は、平成19年7.5%から平成44年目標10%の達成を目指す。

2 施策実現のための体制

- ・行政・交通事業者・市民が一体となった運営組織を発足させ、公共サービスの改善を図る。「金沢市交通まちづくり協議会」が施策ごとの進捗状況を確認。
施策実施後の必要に応じた対策の具体的な検討及び実施、戦略の見直し等を含めた臨機応変な対応を図る。

3 まちづくりとの連携

- ・今後の人口減少及び少子高齢化に対応した集約型の都市構造への転換に向けて



コンパクトな都市機能の集約を位置づけている。「都市計画マスタープラン」で、①市街地の拡大は、原則行わない。②主な都市機能を適正な土地利用計画の誘導と公共交通との連携により、中心市街地及び都市軸に集約する事。③地域生活拠点の公共交通との連携による適正な誘導を掲げている。

以上の3点の具現化に向け、交通戦略の策定と並行して策定する「集約都市形成計画」の中で、基本的なまちづくりの方向性を定め、公共交通ネットワークの再構築と併せて、都市機能や居住の誘導を図り、「土地利用」と「公共交通」の両輪の施策の展開によるまちづくりに取り組む。



(バス優先レーン)



(変化するまちづくりの推進)



(金沢港の交通結節点の強化)

2 多世代の住民が助け合い安心して健康に暮らせるまちづくり（白山市）

(1) 概要

社会福祉法人佛子園が運営する「山草二木行善寺」（平成27年完成）「B's」（平成28年10月完成）の多機能施設（出城地区・北安田町）を中核とし、障害者向けグループホーム、サービス付き高齢者住宅、学生等が居住するシェアハウス、学生住宅を配置し、地域の高齢者の「まちなか居住」や、地域・多世代交流等を支援する取り組みを実施。

「B's」では自治会室、診療所、地域健康促進施設（プール・健康促進機器の設置）、小規模保育施設等を設置し、高齢者・障害者を含む地域住民の健康増進・管理をすることで、「健康でアクティブな生活」を支援するためのプログラムの提供。

金城大学との連携により、地域住民の健康増進・維持に対する効果を定量的・学術的に探究するとともに、学生の社会参加を促し、次世代のリーダーの育成と市への定住を促進。自分たちの地域のことを自分たちで考え解決していく取り組みや、生涯にわたる学習活動や社会的活動への機会の提供を行うとともに、健康づくりや介護予防、生活支援ボランティアの養成など様々な事業を通じて、多世代が地域で元気に暮らし続けることができるまちづくりを進める。



(佛子園が運営する多機能施設 遠景)

(2) 目的

白山市、学校法人金城学園 金城大学、社会福祉法人 佛子園の三者が連携・協力し、「タウン型・大学連携型CCRC」(多世代交流・多機能型拠点の整備)の実現による定住・定着を促進する。



(白山市での研修の様子)

※ CCRCとは、Continuing Care Retirement Community の略

障害活躍のまち構想：中高年齢者が希望に応じて地方やまちなかに移り住み、地域の住民（多世代）と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指すもの。

(3) 目標

1 住民自治

地域住民が地域の課題や意見を共有し、主体的に問題解決・発展できるまちづくり

2 多世代交流

高齢者、子ども、障害者、子育て家庭、学生などを含む地域住民が「ごちやませ」で安心・安定して暮らせるまちづくり

3 生涯健康・生涯活躍

中高年齢者が健康で生涯活躍できるまちづくり

4 子ども・若者の定住、定着

地方創生活動の実践を通して学び、次世代を担う大学生や若者が定着・定住するまちづくり



(天然温泉行善寺)

(4) 運営主体と役割

1 白山市

- ① 地方創生事業への自治体としてのバックアップ
- ② 活動に伴い得られる各種情報の共有と発信
- ③ 高齢者や障害者、一般住民が共存するまちづくりの推進
- ④ 生涯にわたる学習活動や社会的活動への参加推進
- ⑤ 保健・医療・福祉サービスの推進

2 佛子園

- ① 出城地区における地方創生事業の企画・調整・実行の推進



(児童発達支援施設Bs こどもLabo)

- ② 地方創生事業に関わる人材発掘・雇用・育成の推進
- ③ 障害者、高齢者や地域住民の生きがいづくり及び仕事の創出と事業経営
- ④ 大学生の社会参加の推進連携

3 金城大学

- ① 保健・医療・福祉を担う学生と地域人材の育成
- ② 各種の具体的取組みの人的支援と活動の実行
- ③ 学術的調査・解析と情報の蓄積・発信
- ④ 地元学生の定着促進



(自治会室)

(5) 地方創生交付金の活用について

- 1 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行タイプ I）
 - ① 「自治会室」の設置（H27）
 - ・健康管理システムソフトウェア、備品購入費等
 - ② 地域健康促進施設「GOTCHA! WELLNESS GYM」の設立（H27）
 - ・健康促進機器、パソコン等備品、送迎用マイクロバス購入等
- 2 地方創生加速化交付金
 - ・中高年から子どもまでの健康促進プログラム開発・運営導入費用、職員研修費



(スポーツジム Gotcha Wellness)



(B's 保育園)



(就労支援施設 B's Flower)

III 委員の感想等

1 視察を終えて

——金沢市——

- ・ 北陸新幹線開業以前から、金沢の市街地の交通渋滞の解消に取り組み、自動車にたよらない交通機関の導入を目標に、公共交通を充実させていく施策にしっかりと取り組んでいることが分かった。
- ・ 「市民・企業」「行政」「交通事業者」が一体となり、公共交通とまちづくりを連携させたコンパクトシティを目指した取り組みが大変参考となった。
- ・ 交通空白地帯の解消にむけて、「郊外地域運営バス」を導入しており、本市においても大変参考となった。ただし、運行スケジュールが、地域に委ねられており、公平な利便性の点では判断が分かれるところである。
- ・ 自動車は確かに便利である。しかし、自動車の運転ができなくなったときに代替の交通機関がなにもないということにならないように、公共交通機関の整備は必要ですとの説明が、印象的だった。

——白山市——

- ・ 民間事業者の取り組みに、白山市・金城大学が連携して地域再生計画を作成している点で、もう少し、行政のリーダーシップが必要ではと感じた。
- ・ 民間事業者が展開する「ごっちゃプロジェクト」と市が打ち出した「多世代の住民が共生するまちづくりの推進」を目的とした施策がかみ合ったことにより、官民連携がうまくいっている事例と感じた。
- ・ すべての人が生きがい、やりがいを感じ日常生活を送れることで、健康寿命の増進にも寄与する事業であると感じた。

2 その他

今回、金沢市では人口 46 万人の大都市でありながら、超高齢化社会・人口減少を見据えて、公共交通を生かしてのまちづくりを行い、「コンパクトシティ」の実現に向けたさまざまな政策を打ち出すなど、明確な将来の方向性をはっきり打ち出しており、本市においても参考にできる内容が多かった。

また、視察 2 日目の白山市では、人と人とのつながりを大切にし、子ども・お年寄り・障害者それぞれに役割を持たせることで、社会が形成され、まちづくりへと発展していく。社会に必要とされない人など存在しないとの理念のもとだれもが健やかな人生を送れるまちづくりの取り組み事例が見られた。

本市において、廃校施設を利用した仮称ウエルネスプラザの整備事業にも大いに参考となる事例である。